

## 《公開用感染制御感染経路別予防策相談事例集(Q&A)》

相談事例No. 39

### 区分 感染経路別予防策 (CVポート)

#### 【質問】

皮下埋め込み型中心静脈カテーテル (CVポート) を使用するとき、フィルター付き輸液セットを使用するのがよいでしょうか？

#### 【回答】

輸液を行うカテーテルの種類に関わらず、フィルター付きの輸液セットを使用するかどうかについては国内では様々な議論があり、各施設の考え方や状況に合わせて対応しています。輸液回路内に使用するインラインフィルターについての一般的な考え方は以下のとおりです。

国内の多くの医療機関が参考にして『血管内カテーテル由来血流感染予防のためのガイドライン』では、2002年版には「感染予防目的でインラインフィルターを日常的に使用しない」という勧告がありましたが、2011年版からはインラインフィルターに関する記述はなくなりました。米国では、薬局で無菌的に点滴製剤の調製を行うことが多く、その際に輸液をろ過する作業も行われることから、インラインフィルターを使う特段の理由がないことが背景にあると推察されます。

なお、インラインフィルターの使用目的として、輸液に混入する微生物の除去、微粒子の除去、空気の除去があり、病棟で輸液を調製する場合も多いことなどから、インラインフィルターを使用している施設もあります。

また、『静脈経腸栄養ガイドライン第3版』では、「インラインフィルターを使用する (AIII)」ことが推奨されています。解説として、同じくCDCガイドラインから、「フィルターがカテーテル由来血流感染症の発生頻度を下げたことを示す根拠はない」としながらも、「病棟で多くの薬剤を輸液バッグ内に混注することがしばしば行われており、輸液バッグの汚染の危険性は高い。実際に輸液の汚染によると思われる事故が発生している。このような本邦における現状を考慮し、薬剤混合の衛生管理の改善が行われないうちは、すべての中心静脈ルートにはインラインフィルターを装着するよう推奨することとした。」としています。

感染予防として必須ではないことから、これらのガイドラインを参考に、それぞれの状況に合わせてインラインフィルターの使用についてご検討ください。

#### 《参考文献》

- 1) 森兼啓太監修：血管内カテーテル関連感染予防のためのCDCガイドライン. 2011
- 2) 石井一成. : 特集 輸液フィルターの意義を考える 輸液フィルターの構造と機能. 静脈経腸栄養. 2009. Vol124 No. 6. P1159-1162
- 3) 坂本史衣: ” インラインフィルターについて” . ASP Japan合同会社 感染管理情報 感染管理Q&A. 2011年. <http://www.asp.co.jp/academic/qa/column9>
- 4) 日本静脈経腸栄養学会：静脈経腸栄養ガイドライン第3版. 照林社. 2014. P80-81